

続・血管爆裂病原体

Anno Kyojin

安茂興人

青山ライフ出版

続・血管爆裂病原体 ◆ 目次

再びの怪死事件	6
あらたな疫病	7
死因不明3名の病理解剖ファイル	10
大森教授の鑑定	12
高市の秘密ファイル読み解き	14
教授の読み解きに迫る	16
3人の連続怪死者高密度接触 （高市とその妻の日記から要約した発症状況）	18
未知の病原体の恐怖、牧村に再び	29
牧村の人々の反応	36

続く正体不明	40
村封鎖の是非	41
科捜研動物実験室	45
教授の電顕室	49
ウイルスの感染能力の確認	54
本部長室	55
高市の未亡人とその娘	59
あらたな患者	65
6人目の死者	77
急激な感染拡大	80
奇妙な符合	83
感染者の連続死	87
第3の感染経路	92
事故現場類似の恐怖	97
つかめない殺ウイルスの手がかり	100

大臣室	105
田中の憂鬱	109
本部長の決断	119
島村奮闘する	121
村の墓地	125
町立河原病院	128
政務次官室	130
ふたたび緊急避難投与認められる	151
エピソード	154



続・爆裂血管病原体

再びの怪死事件

多くの人を死に追いやった謎の線虫は深海中で衝撃波を受けてすべて破壊された。その事件は島村の脳裏に強烈な記憶として残っていた。島村は線虫が「上陸」した牧村の浜辺を今でも歩くことがある。線虫の痕跡を追い求めているわけではない。今では平和になったビーチは夏になると多くの海水浴客が訪れ白砂のきらめく浜辺で明るい声を上げていく。あれは何年前だったろう。おそらくあの事件の事はここで遊んでいる今の世代は知らないのだろう。時は容赦なく過ぎていく。命あるものは事件のあったあの時から現代にいたるまでのその間に息絶え、新しい世代が生まれふたたび繁栄を築いていく。島村はふと足を止めると砂浜に散らばっているピンクに輝く桜貝の貝殻を取り留めもなく眺めている。すると後方から白砂を踏みしめて人間らしいものが近づいてくる物音がする。

あらたな疫病

島村が思わず振り向くと田中だった。田中はあれから出世して警部補になっていた。島村は相変わらず一研究員だ。出世に興味がないのである。研究こそわが命とうそぶいていたが、あの後結婚した妻からはその研究馬鹿にあきれはてられて軽く見られていた。それでも島村は平気だった。根っからの研究好きだったから。

「島村さんよお。久しぶりだねえ。また回顧にふけているのかい。線虫は絶滅したんだよな。あれだけ徹底的に破壊したからもう帰って来ないよ。あれは実に恐ろしい事件だったな。あんたの機転が無かったらあのパン、なんていったかな、そうだパンデミックという状況になって世界絶滅と言うことになっていたな」と聞いたような口をきいた。

「ほう、難しい言葉を知っているじゃないか。パンデミックと言うのはな世界全体に感染が広まって制御不能になることを言うんだぜ。人間はパニックで、環境はパンデミックと言うことだな。ははは」

「島村さんよう、俺がここに来たのはご挨拶なんかじゃないんだぜ。実はな最近、また牧村で奇妙な事件が起きてな、つまり人が散発的に奇妙な病気を発症して死に始めたんだよ。

もちろん線虫流行が再発したと言うことじゃないんだ。死因がはっきりしないので解剖医は病死とも事件とも言っていない。牧村の村内で3人つづけてほぼ同じタイミングで似た症状を発して死んだという事態が発生したんだ。それが死に至った症状を見れば以前の線虫事件との関連を思わせる嫌な事件でな。死因は線虫事件と極めて類似した大血管の破壊(破裂)なのだ。もちろん線虫の侵入事件の事があるので、事件の再来かどうかなんて疑いはあった。それでさ、過去の事件の記録が残っているんだから、いの一に線虫が関与しているかどうか調べたさ。残念ながら犯人は同一ではなかった。病理解剖では線虫の血管内への侵入はまったくない。被害者は血管が線虫ではない何ものかの攻撃でぼろぼろになってその空間から血液が漏れ出して出血多量で死ぬようだ。血管が爆裂するという現象は線虫の事件の時と非常によく似ているので、教授も非常に興味を持ってくれて、病理組織片を丁寧に調べてくれていた。しかしやっこさんも年を取ってなあ。目が悪いので昔の様に超精密な病理的原因のひもとき検査が出来ているもんだかどうだかあやしいものだが。口だけは達者でなあ。これはなにか人体外の外来物質による被害であって本人の血管の老化なんかによるものではない、もちろん線虫でもない、何かわからない生物の侵略の可能性が高いというんだよ。それで君の類まれなる推理力と観察力を当てにさせても

らってその標本を見て原因の解明に手を貸してほしいんだよ」

「ああいいよ。最近事件らしい事件がなくて時間を持って余し気味だったからね。

そのまえにその犠牲者の調書が署にあるだろうから具体的な捜査結果の内容や解剖の経過を教えてほしいんだよ。君の事だから一応事件かどうか確認するため綿密な捜査はしたんだろ？」

「ああ、本人に起因する死ではなく何らかの外力による死亡ということになれば殺人や強盗のような事件、毒殺、宇宙生物の仕業などいろいろ調べないといけなくってね。教授がただの病死じゃないと言い張るからまた未知の生物の仕業ではないかといういろいろ調べざるを得なくなってるね。線虫2号は勘弁してほしいな」

2人は乾いた砂がきゅきゅと軽快な音を立てるのを聞きながら鉄道駅のあるほうにもどっていった。

死因不明3名の病理解剖ファイル

錨山警察分署は田中の転属先で村内の島村の研究所の近くにある古びたコンクリート製の建物である。階段のところどころに外装の欠けたところがあるので注意しないと突っかって転落の恐れがある。田中はそこを飛ぶように駆け上がった。あのころは若かったけど今でも捜査の一線なのだろう。年の割に体力はある。階段を突き当たったところが捜査室で指名手配の人間の顔が貼ってあったり、殺害現場の写真が並べてあったり気持ちのいいところではない。複数の事件を所員が5人と言う小人数でこなしているようだ。田中の案件は殺人事件の可能性は極めて薄いのだが犠牲者の死にかたにきわめて特徴があることに教授が気がつかなければ単なるありふれた疾病による病死として片づけられたかもしれない筋合いのもので、3人の村人を死に追いやったものの正体の解明捜査は一向にすすんでおらず、捜査資料一切合財は古い本立ての一隅にファイルでしまわれたままだった。

このままでは未解決事件になると田中は思って島村に話を持ちかけたのだろう。といっても田中が捜査を始めてからまだ2か月はたっていない。其のファイルはかなり分厚く事件性が薄かったにしてはあれこれ検討してあるので不審に思ったが警察としては、病理解

剖でもしてみようということになってその資料が届いた分厚くなったようである。亡くなった患者の生前運び込まれたところが牧村の診療所だったのでそこでは病理解剖はできない。それで、そこから転送されたN町立病院の担当医に病理解剖をお願いして所見を報告してもらったことになったようである。届けられたのがそのファイルなのである。したがって報告者の責任医師名はいつもの司法解剖担当の大森教授ではなくその病院の病理医であった。病院の報告書の記載では3人とも死因として大く動脈の破裂で共通したものがあつた。動脈破裂は普通にある疾患ではなく、それがまとまって出てくること自体が普通でなく、まささに田中は以前の病的寄生性線虫による血管破裂事件を思い出したのだが、報告書はその線は完全否定しており、では本星は一体何なんだろうと田中は背中に寒気を覚えた。それで解剖結果資料の一部をコピーして司法解剖の権威大森教授にさらに詳細検討してもらったことになったのだつた。教授が未知の生物云々言いだすものだから、調査資料については医学以外の科学的捜査専門領域で鋭い観察眼のある島村にもう一度標本を見てもらうことにしたのだつた。

大森教授の鑑定

大森教授から帰ってきた報告書を見ると、大森教授は保存されている標本の外見から切断面、顕微鏡用観察標本断面、および電子顕微鏡観察用標本まで観察を手順に詳しく進めて行ったようだ。報告書には一つずつきわめて精密に所見が書きつづられていた。

「まず大動脈血管の基本構造つまり弾力のある緊張性構造が破壊されているように見える。患者はすべて突然の激痛で救急搬送されている。自覚症状及びCTの結果から大血管破裂による腹腔内または胸腔内大出血が疑われたのでいずれも緊急解剖による詳細見当が必要とされ、患者が最初に運び込まれた村の診療所から病理解剖のため村外の設備の整った病院に転送され死因の詳細検討が行われていた。

緊急病理解剖の所見では破壊部位の血管の構造的強度が劣化し当該部位から血管の破裂を来した大出血を起こしたもので3名とも対症治療が間に合わず搬送前死亡に至っている。CT所見では当該部位の組織膨潤は認められず、にもかかわらず内膜側から外膜に向かって血管が破裂している。自分が直接観察したわけではないが血流シンチグラフィでは血流のスムーズな流れが障害部位で妨げられ当該部位で血管の柔軟性が失われているよ